

# 新しい方向への保育研究録

東京都教育會附屬  
教員保母傳習所

松 石 治 子

幼児保育の劃期的な刷新が愈々急務となつた今日、我々保育者は先ず何を爲すべきか、と云う事を考えなければならぬ。

想えば明治より大正、大正より昭和と、幼児保育は法令の上からも亦方法の上からも種々の變遷を経て來たが、今日程全面的に法令が刷新され、それに伴う保育法の改革が要求されて居る時は無かつた。昭和二十二年四月一日を以て教育基本法が法律として公布され、幼稚園が學校教育法中に於て、他の諸學校と同列の規定を以て其の位置を保ち、其の最も大切な價値を明示した。之は正に幼児教育の一大進展と言ふ事が出来る。

其處で實際保育に携わる保育者は、法令の刷新された精神に基づき、兎も角も日々の子供等の生活を少し宛でも改良して行こうとする熱意を持たなければならぬ。法令に示された精神の核心を掴み、その線に沿つた保育へと心掛ける事が急務である。

その爲には現在自分の行つて居る保育法の改良すべき點を靜かに考へて見る事が急務で、何時も幼児の幸福な生活、充

實した生活の爲に爲さなければならぬ種々の事柄を一つ一つ思い起して見なければならぬ。反省して見るとその改良點が今度の教育基本法中に澤山含まれて居る事が分るから、先ず繰返し繰返し學校教育法中の幼稚園の條文を熟讀する事が大切である。

保育者も幼児も毎日の保育の型によつて、型通り幼稚園生活をして居る。三百六十五日保育者は前日の否前月の否前年の型によつて平和に長閑にそして考え無しに暮して居る。今日も無事、明日も無事、幼児も三百六十五日何か分らぬが其の寮圍氣の中で暮して居る。

少し研究心のある保母は其の氣分が何と無く心許なく何時も惱み續けて居る。しかしその惱みは自分でも何か分らない惱みである。「幼児にもつと自然な楽しい生活はさせられないものであらうか」此の一事では無かつたかと今にして泌々と考へるのである。

幼稚園教育法を見ると、今迄の缺點を改むべき事はよく分るが、次に之を如何に幼児保育の實際の上にあてはめて行くかという事を考えると、今度は生優しい惱みではない。全く

未開拓の原野に踏込んで呆然と佇んで居る旅人の感じがする。それが自分達である事に気が付くと、實に心細さと焦燥した氣持とで言い様も無い想いがする。

「一體今後の保育はどうしたらよいか」漠然と斯うした事を考え乍ら五月に入つた時、女高師で倉橋先生の御講義があると同つた時は全く暗夜に灯を得た心地であつた。

それ以來二旬に亘る御懇切な御指導を得て原野の旅人の一人である私にも、だん／＼生氣が出て來た。

實際保育への研究……保育に携わる人々が研究しなければならぬ幾多の問題の中から、私は先ず手近かな保育形態への種々な考えを實際保育の上に試みようとした。

幸い六月一日から臺東區清島小學校内に新設された清島幼稚園が保姆傳習所の保育實習所として提供されたので、其處を研究の對象と定めた。

幼児は年長組七十名、年少組八十名で小學校の教室二室を使用し、運動場はプールが不完全で危険な爲、屋上を幼児の運動場とした。

遊具は一つも無い、椅子や机は人員だけ無い。完備した幼稚園から見れば全く之で保育が出来るかと思つた程であつたが、新保育への考え方は舊い幼稚園の設備の點にも餘り固執しない方が良いと思つたので、他の點で之を補う事として、兎も角も保育形態への研究を始めたのである。

現在までの定つた型を考へて見る時、普通の場合大抵次の

様な形を取つて居たと思われる。

登園→自由遊び→會集→唱歌→遊戲→自由遊び  
→手技(又は他の項目)→晝食→談話→自由遊び  
↓降園

以上が組別に依つて實施される。一日の生活は雨が降ろうが暑かろうが大抵この順序に依つて指導される。嫌がる幼児を引据えて會集をする等は珍らしく無い。靜肅な時を持たせる事は大切であろうが、會集とか唱歌とか遊戲とか遊びの形で導かれる様になつたら、どんなに子供等は幸福な事であろう。現在の幼稚園は五項目を課業として居る様に見える。唱歌の時間の次には自由遊びがある。其の次には又手技がある。と言う形である。

幼児等も親も之が幼稚園の教育だと思ひ込んで居る。又保育者も其れを方法と考へて居る。何とかして遊びのまゝの形で、一日の子供の生活が出来ないものであろうか。

私は餘程前から自由遊びの誘導保育を提唱して居た。それは此の課業的な保育の缺陷を補うためであつた。子供が何か遊びを始めたら、其の良い機会を捉えて五項目の方向へ其れを誘導する方法である。随分子供は楽しんで幼稚園へ來て遊んで行つたが、頭の良い技術的に優れた保姆でなければ、遊びが單なる遊びの儘で終つて仕舞うか、又下手をしようと遊びが中斷してしまふ事も珍らしくなかつた。

又毎日の保育活動が所謂行き當りばつたり保育になり勝手で、保育の豫定も餘り役立たず其目的も時々失われる様な

事もあつた。結局は遊ぶ事の出来る子供は、いくらでも導かれ、遊ぶ事の出来ぬ子供は置き去りになる様な缺點もあつたのである。

結局幼稚園では五項目を遊びの形で子供に與えて見様と思つた。今では五項目というものは幼稚園の指導内容の全部では無い事が明らかにされたが、我々は遊びの内容の一部分として、矢張り此の五項目は上手に扱つて行き度いと思う。つまり課業としての五項目でなく、遊びの表現としてのおはなしであり唱歌であると思つて行く。それで便宜上之を指導遊びと名付け、玩具、運動具による遊びとを區別する事にした。

さて舊體制の幼稚園では一齊的な保育が多いから出来る丈け之を排して、遊びの形で集つた一群を以て指導の單位としようと思つた。

又登園した幼児が何の束縛感をも持たぬ様に遊びから遊びへ、分園から集團へと移行し出来る丈け自由活動を伸す事に注意して見様と思つた。

何分にも六月一日の開園とて、其の日から新しい方向への研究の發足をすべく、心の準備と設備を整えて百五十名の幼児を迎えたのである。

此處で私は舊い頭を完全に切り換える事を心に誓うと同時に、舊い頭を切り換えて手傳つて下さる研究家を求めた。幸に三名の經驗ある特志家が馳せ参じ、又保姆傳習所の生徒の

何の型も何の理想も持たぬ無垢な保育者の純眞な奉仕に依つてその第一歩が踏み出された。

第一週に於ては分園と一齊的取扱いに依り新入園児の集團生活への自然的な導入を目的として保育の型を編成して見た。新入園児の事であるから雜然としては居たが、玩具を置いてある所でよく遊び、繪本やまよごと遊びにも餘念が無かつた。遊び乍ら、手技も唱歌も行つて見た。自分の好きな事を指導する所へ集つて熱心に活動したが、一齊に集ろうとする時に集る事が分らないので大變に困つた。一齊に集らなくてもよいかも知れないと思つたが、集團生活への訓練の爲には一齊指導も大切だと思つたからである。幼兒は分團的な指導を受けて居る時は眞に楽しそうによく活動するが、集合して一齊指導に移ると元氣が無くなり、不愉快そうに見えた。そして其の指導に少しも乗つて來ないから、保育する方もさされてゐる方も、何となく幻滅を感じる様な状態である。之はたしかに考へなくてはならない問題だと思つた。

そこで第二週は次の様に試みた。

玩具あそび  
登園 指導あそび

分團的指導

集合—指導あそび—降園  
集合—指導あそび—降園  
集合—指導あそび—降園

前週の全園児が集合して一齊的な取扱いをする事は人数の上からも無理であるから、今度は全體を三つの大きな分團として、各々子供の好む様な指導あそびをして歸すと云う方法を採用して見た。各々の分團は割合によくまとまつて餘り不自

然ではなかつたが、全園児が毎日各々自分の好む方向へ勝手に活動して幼稚園生活への興味は非常に出て来たらしいが、いつも離れ〜の生活で、その上保姆が自分の意志を強く働かせて幼児を誘導する様な場合も出来たので、之ではこまると思つた。

その上子供等が何時も雑然として居て少しも落着かない。若し第一週第二週續けて舊い型を付けたら今頃はもう集る時には集り、揃う時には揃うであろうと思つた時先ず集團生活の規律をつける事が急務である事を思つた。

そこで第三週は組別と課業保育を主にする古い型の保育をして見る事にした。第三週は次の様になる。

登園—玩具

組別集合—課業保育

自由

集合—降園

幼兒は朝登園し何時もの様に色々なあそびの端緒が発見されないで困つた様子であつた。今迄来れば何かしら用意してあり、すぐにそこで指導が始められたのに手持無沙汰の感がした。

組別の集合は始めてなので其の區別に苦心した。組別に集つて見ると始めて年令と云うものゝ差をはつきりと考へる事が出来たし、續いて課業保育に入つた時は保姆は漸くほつとした様な気がした。永年やつて居た事である安心と幼兒が揃つたと言ふ満足感からであろう。子供は静かであるが別に樂しそうで無い。中には保育室から抜け出す子供も澤山ある。

子供の活動は受動的になり少しも子供自身活動し無い。それ丈けに保姆は樂である。この週の保育によつて幼兒は集團生活の規律に對しておぼろげ乍ら意識する様になつた様子である。會集の方法について色々考へて見た。時間的に短く要領を得て効果的に行う事に苦心したが、思う様には行かなかつた。

第四週に於ては一齊指導と分團指導の混合に古い型を加味して見様と思つた。それで次の様な方法を用いた。

登園—玩具

分團—集合—指導あそび—降園

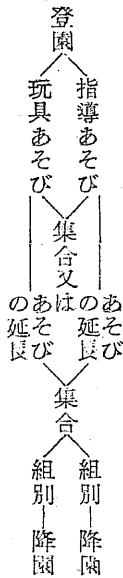
玩具あそびが長く次に會集が來ると幼兒が疲れる様である。玩具あそびは所謂自由遊びで園児の大部分が集るのを待つて居る。その時間の貴重さが沁々分るほど、會集にはだれて來る。其の後の分團的指導は少しも活動し無いし、一日中前の朝からの分團の楽しい生活のつながりの氣分が無く、何時も斷片的な取扱ひを受ける様になり、一日の生活がしつくりしない。又組別に集る事が無いから幼兒の發達程度の問題も考へて行かなければならないと思つた。この週は受動的になつた幼兒の態度をつとめて自主的にする爲に苦心した。

第五週に於ては左の様に考へて實施して見た。即ち登園の順に一團を作り會集に入つて直ちに豫定の分團保育に入る方法である。

① 登園—會集—指導—分團—自由方—組別—集合—降園

② 登園—玩具—指導—向への發展—組別—集合—降園

幼兒の登園時間は約一時間半の差がある。新鮮な幼兒の生活力がこの一時間半の間に無爲に費される事のない様に苦心した結果、五十名位集つたら第一團の會集をする。次は又集めて第二回とする。其の各二つ或は三つの集りが各々あそびに合同して指導あそびとなり分團的保育指導の下に自由方向へ發展する。その時々様子に依り、分團のまゝで降園する事もあり、組別は集合して降園となる事もある。この週は稍々成功した様に思えたが、保育室の無い幼兒の多い私の幼稚園では、仲々他に防げられずに會集も出来にくいから、結局會集と言う事はその價値のある事でもなかつたら無理に強いる必要はないと思つた。そこで第六週に於ては全く自由に其の時々々の幼兒の氣分を尊重して行く方法を探つて見た。



即ち登園してすぐに玩具や保育教材に依る指導あそびが開始される。自分から好む所で好む物を選んで活動する。其の活動が活潑に發展する様子ならば其の儘にして置かし、飽きたり失敗したりした時は任意に集め何か一齊指導して満足させてから再び遊びに入る。組別の集合もその時々々に依つて種

々に變化をさせて見た。此の第六週間目に於て感じた事は、幼兒の生活を兎に角楽しく組立て、行く事であると思う。楽しい生活は自然的な生活である。自由の生活である。自由の生活と集團生活への程よい結合に依つて幼稚園生活を形作る事が大切である、と言う事が分つた。

○

創立された許りの幼稚園の子供はまだ定つた生活の型を持つて居なかつたから、どんな指導にもついて來たが、第六週間目の今日では幼兒の生活の型が稍々つきかゝつて來た様である。即ち會集の無い自由あそびの生活、其の所々に組別の集合や一齊指導が少し宛加味される生活が一つの流れとなつて來て居る様である。

次に或る實習生の書いた保育の記録を要約して記して見様

七月五日 土曜日 晴天

登園日今日は朝から晴れたよいお天氣、朝の挨拶の出來ない幼兒は二人位になつた。

手技キビガラ、ヒゴ竹、紙、鉄を使つての自由製作。この前に比べて立體的な物を作る者が多い。「ほたるかご、プランコ、水車」など新しい創作が多いのはうれし。「金槌や杵」は年少組の幼兒に多い、創作してゐる幼兒は大變に靜かです。玩具あそび文字板や積木で遊ぶ者もいつまでもいつまでも飽きずに種々な形を作つて遊んで居るし、屋外で遊ぶ一群も楽しそうです。

屋外あそびさくらの花拾い、小學校の江り臺あそび等之も

仲々、楽しそう。さくらの花は糸で繫いで綺麗な輪飾りを作つて黒板へ掛けると、皆氣がついて、急に拾う子供で木の下が賑やかでした。そこで花に就いての觀察指導が出来ました。繪断し、講堂で始まりましたので一齊に集つて行きました。アリス物語りといふ美しいお話して皆大喜びです。一人残らず自然に集つて氣持のよい程でした。

遊戯集つた幼児を順々にマーチによつて誘導して大きな圓陣となり「螢来い〜」や「金魚」や「楽しい幼稚園」などを面白そうに致しました。

裸體々操、暑いので裸になつて屋上へ登ります。珍らしく富士山が見えたので、前に子供等の作つた創作唱歌「屋上へ登る」の第三歌詞の創作指導がありました。「行こう屋上だんだん登ろ、上野のお山と富士山も見える」と子供等の活潑な發表で先生がまとめられ、早速それを歌い乍ら整列して乾布摩擦をします。明るい太陽の下で潑刺として居る子供たちの姿を見た時、思はず「幸福な幼児の生活」の核心にふれた様な氣がして、胸が熱くなる思いがしました。洋服も大抵自分で着られる様になつて仕度の時間も早くなりました。繪本よみ、涼しい窓際で三人の先生方が椅子や莫蔭や机を面白く配置して子供等を指導していらつしやいます。

折紙、繪本に飽きた幼児は折紙を一枚宛頂いて好きなものを作つて居ます。鋏を持つて來てお面を作る子供も居ました。お面が流行したので先生はそれをお話しあそびに導かれておもしろい遊びが始められました。又繪本よみの一團では玩具

の汽車からリズムあそびが始められて、和音による色々な動作への結び付きが楽しそうに行われました。

降園、時間になりましたので組別に集ります。今までして居た色々の遊びが急に終つたので不平そうでしたが、今日は夏の幼稚園の大切な通知を渡すので、其の手紙のお母様への渡し方の練習がありました。どの子供も眞剣に先生のなさる事を見て居ました。子供への注意は口で教える許りで無く、面白く理解させるために行動の練習も大切だと思ひました。一人宛お手紙を頂いて楽しそうに歸りました。

可愛い子供等も一日まじに一本立ちが出来てよく先生の云う事を聞き分け、楽しく生活して行ける様になつたのを私たちも大きな喜びを感じます。

○ 以上で半日の生活記録は終つて居る。開園一ヶ月間の研究は誠に日も浅く考えも浅い。之から型をつけないである幼児を、最も理想的な保育に誘導して充分に生活の充實を計るためには尙澤山の問題が残されている。創作指導に關しても一ヶ月間面白い研究が出来て、模倣製作と創作との關係にも種々の問題があり、非常に複雑な未開の分野が澤山ある事を見出したのである。

故に保育者は頭を切り換えた上で、幼児の中へ白紙で飛込んで、保育學一年生になつた氣分で勇氣を起して今一度勉強を仕直さねばならぬと痛感した。以上貧しい體験の一端を記して保育者諸姉の参考に供する次第である。(二二、七、十五)